

2019年3月14日 全3頁

英国議会は「合意なき離脱を回避する」政府動議を可決

追い詰められるメイ首相

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 125

ロンドンリサーチセンター
シニアエコノミスト
菅野泰夫

[要約]

- 3月13日、英国議会は、「合意なき離脱を回避する」政府動議を賛成321票 vs 反対278票で可決した。これにより、英国議会は合意なき離脱を拒否する姿勢を鮮明に示したことになる。しかしながら同動議は法的拘束力がないため、英国政府は合意なき離脱の可能性を完全に排除する必要はない。法律でもないため、理論的には無視できるが、本当に無視した場合は、政治的な混乱が起こるため、実際に無視することはできないだろう。
- 本動議の採決に先立って「いかなる状況でも合意なき離脱を否定する」スペルマン議員の修正案が僅か4票差で可決されたことは重要な事実として認識すべきであろう。党議拘束をかけないとしてきた政府動議の採決であったが、合意なき離脱の可能性を残すために、メイ首相は急遽この修正案に反対するよう党議拘束をかけた。
- 英国が合意なき離脱をしないためには、①合意を受け入れるか、②ブレグジット自体をキャンセルするか、③離脱期限を延長するかのいずれかを選択することが求められる。バルニエ首席交渉官は、英国がアクシデント的に合意なき離脱に陥る可能性が日増しに高まっているとし、そのリスクと影響を過小評価すべきではないと欧州議会にて述べている。

英議会は合意なき離脱の回避を可決

3月13日、英国議会は、「合意なき離脱を回避する」政府動議を賛成321票 vs 反対278票で可決した。これにより、英国議会は合意なき離脱を拒否する姿勢を鮮明に示したことになる。しかしながら同動議は法的拘束力がないため、英国政府は合意なき離脱の可能性を完全に排除する必要はない。法律でもないため、理論的には無視できるが、本当に無視した場合は、政治的な混乱が起こるため、実際には無視することはできないだろう。

今回の政府動議（議長が選んだ修正案は後述のスペルマン議員とグリーン議員の2本）は3月29日時点の合意なき離脱を否定するもので、将来的には合意なき離脱が起こる可能性を残したものだ。しかしながら、本動議の採決に先立って「いかなる状況でも合意なき離脱を否定する」スペルマン議員の修正案が僅か4票差（賛成312票 vs 反対308票）で可決されたことは重要な事実として認識すべきであろう。党議拘束をかけない自由投票としてきた政府動議の採決であったが、合意なき離脱の可能性を残すために、メイ首相は急遽この修正案に反対する党議拘束をかけた。ただ、この政府提出の動議に政府自らが反対するという行為は前代未聞のものであり、ブレグジットを巡る与党内の混乱が改めて浮き彫りになったといえるだろう。自身も（同修正案に）反対票を投じたにもかかわらず、それでも可決されるという散々な結果となったため、メイ首相の権威はまたしても失墜したといえよう。

さらに注目されたグリーン議員の修正案（モルトハウス妥協案のプランB）は賛成164票 vs 反対374票で否決された。同修正案は、離脱日を5月22日まで延長し、合意なき離脱への準備期間を確保する内容である（離脱協定は締結しないが、EUと現状維持の協定を最長で2021年末まで移行期間を確保し、英国はEU拠出金の負担や法的義務を履行するもの）。いわば統制された合意なき離脱を目指すものである。ただEUは再三にわたりこれを否定しており、今回の否決によって完全にその芽が摘まれたといえよう。

3月14日は離脱期限の延長を問う議会採決、注目は期間に関する修正案

合意なき離脱の可能性を排除した結果、メイ首相は、当初の予定通り3月14日に離脱期限の延長を巡る採決を行う声明を出した。政府動議では3ヵ月間を超えない延長が提案される予定だが、関税同盟や二回目の国民投票、ソフトブレグジットなど様々な修正案が提出される見込みである。

メイ首相は、離脱期限の延長となる条件として、短期間かつ合意が3月末までに受け入れられることが前提という考え方を再三強調している。実際に（短期間の）離脱期限の延長をするのは、議会がメイ首相の合意案を可決した後、実効法制定に必要な時間を確保するときのみである（いわゆる、テクニカル延長）。メイ首相が言う必要な短期の（テクニカル）延長と、離脱合意の受け入れを巡り議論するために必要なより長い延長との間には、大きな違いが存在する。メイ首相はより長期の延長の可能性をちらつかせることで、離脱自体がなくなることを材料と

し、強硬離脱派に離脱合意の受け入れを迫る考えだ。また数日以内に合意に達しなければ、延長要請はこれより長期になり EU 離脱が大幅に遅れることを警告した。そして、長期の延長は英国の欧州議会選挙への参加を意味し、それを望む人は少ないだろうとし、議会は自身の選択がもたらす結果に直面しなければならないとした。

英国が合意なき離脱をしないためには、①合意を受け入れるか、②ブレグジット自体をキャンセルするか、③離脱期限を延長するかのいずれかを選択することが求められる。ただバルニエ首席交渉官は、英国がアクシデント的に合意なき離脱に陥る可能性が日増しに高まっているとし、そのリスクと影響を過小評価すべきではないと欧州議会で発言している。今後も、合意なき離脱の可能性は完全には打ち消すことはできず、英国および EU にどこまで影響があるかは未知数である。ただ、このまま明確な解決策が見いだせない状況が続けば、さらに合意なき離脱が発生するリスクが高まるだろう。

(了)